

# 図書館での本の探し方 ～基礎の基礎編～

# 図書館では本をどう並べているか

「調べものの部屋」には約 1 万冊の本があります。もし、これらの本がただ適当に並んでいたら、見たい本をすぐに探し出すことができるでしょうか？「図書館」という仕組みを作った人たちは、2 千年以上前から、特定の本を探し出したり、調べたい分野の本をまとめて見たりするのに適した方法を考えてきました。現在では、世界のほとんどの図書館で同じような方法をとっています。それは、

分類して記号をつける ということです。

本にはそれぞれ扱っているテーマがあります。図書館では、テーマで分類して、同じ分類の本をまとめて並べることで、探しやすいようにしています。日本のほとんどの公共図書館や学校図書館では、日本十進分類法 (NDC) にっぽんじっしんぶんるいほう エヌディーシー を使っています。十進分類法というのは、本で扱われるテーマをまず 10 の分野に分け、その各分野をさらに 10 に分け、またさらに 10 に分け・・・というふうにして、だんだん細かく分類していく方法です。

にっぽんじっしんぶんるいほう エヌディーシー  
**「日本十進分類法 (NDC)」のしくみ**

0 総記
1 哲学
2 歴史
3 社会科学
<b>4 自然科学</b>
5 技術
6 産業
7 芸術
8 言語
9 文学

40 自然科学
41 数学
42 物理学
43 化学
<b>44 天文・宇宙</b>
45 地球・地学
46 生物
47 植物
48 動物
49 医学・薬学

440 天文学・宇宙科学
441 理論天文学
442 実地天文学
443 恒星
<b>444 太陽</b>
445 惑星・衛星
446 月
447 彗星・流星
448 地球・天文地理学
449 時法・暦学



この本は、太陽（太陽系）について書かれているので、分類は「444」となります。

「よん・よん・よん」と読みます。

※さらに細かく分類する図書館もあります。たとえば、「太陽の黒点」に関する本は 444.4、「日食」に関する本は 444.7 というふうに分けることもできます。

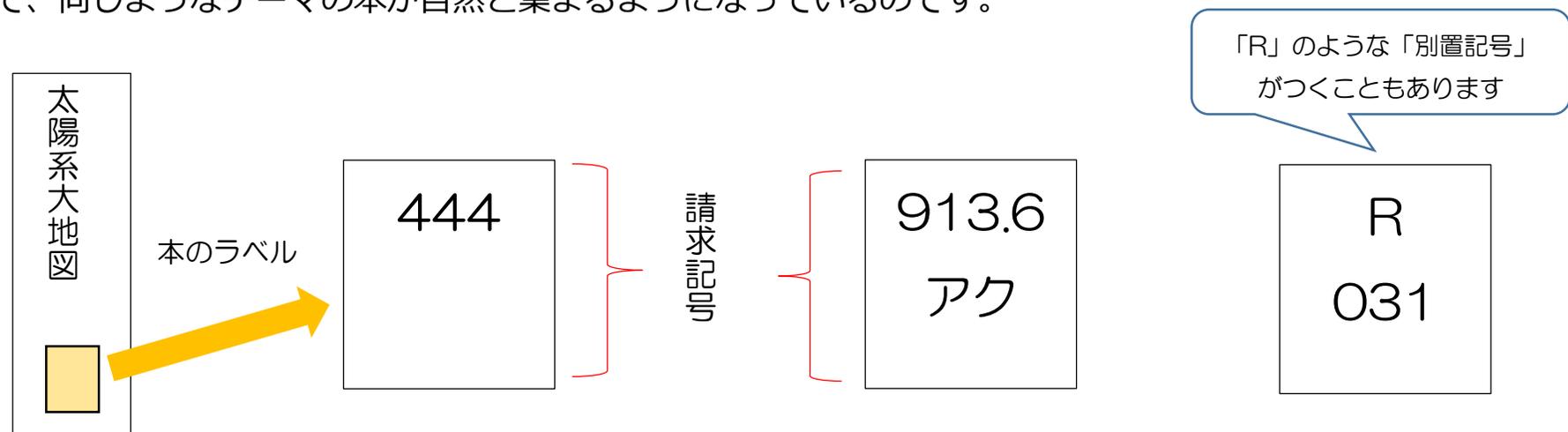


まず全分野を 0 から 9 までの 10 の分類に分けます。  
 図書館ではこの数字を「類」と呼びます。たとえば、「自然科学」だと「4 類」です。

次に各類をさらに 10 の分類に分けます。  
 たとえば、宇宙に関する本なら「44」となります。ここまで分けることを「2けた」の分類といいます。

さらに 10 の分類に分けます。  
 「天文・宇宙」の中の太陽に関する本は「444」となります。ここまで分けることを「3けた」の分類といいます。

このようにして決めた分類（分類記号）は、本の背表紙の下のほうに貼ってあるラベルに書かれています。分類記号の下に、本の著者やタイトルの頭文字からとったアルファベットやカタカナがついていることもあります。ラベルに書かれている記号を全部あわせたものを「請求記号」といいます。図書館では、この「請求記号」の順に本を並べているので、同じようなテーマの本が自然と集まるようになっているのです。



分類のしかたは決められていて、本になっています。

➡ 詳しく知りたい人は、『日本十進分類法 新訂 10 版』『日本十進分類法 新訂 9 版』（請求記号：014）をご覧ください。

ただ、どう応用するかはそれぞれの図書館が使いやすいように決めることができます。そのため、同じ本が図書館によって違う分類になることもあります。



## 本を並べる順番

本は、「請求記号」の順に左から右に並んでいます。棚板にぶつかったら下の段に移ります。一番下の段まで行ったら、右の棚の一番上の段に移ります。

